



# アゼルバイジャン経済・財政(1)

## 概況

- 当国経済は、2005～2014年にかけて豊富な石油・ガス資源を背景に飛躍的に経済発展し、その後油価の下落に伴い経済全体が低迷。2022年以降は、新型コロナウイルスの影響も和らぎ、ロシア・ウクライナ情勢の影響で石油価格が高騰し経済活動は回復。
- 新型コロナウイルス蔓延後のエネルギー需要の急増及びロシア・ウクライナ情勢による油価高騰により、財政の改善が見込まれる一方、インフレ等による社会情勢不安については注視が必要。
- 国内総生産（GDP）の3～4割、輸出高の約9割を石油・ガス部門が占め、依然として石油・ガス部門への依存度は高い。
- 石油・ガス収入を基にしたSOFAZ（国営石油基金）の積立金が財政収支・国際収支を底支えし、マクロ経済の安定性維持の要となっている。

## 経済データ

人口（2023年）：1,018万人（国家統計委員会）  
 名目GDP（2023年）：723.56億米ドル（国家統計委員会）  
 一人当たり名目GDP（2023年）：7,126.2米ドル（国家統計委員会）  
 実質経済成長率（2023年）：1.1%（国家統計委員会）  
 消費者物価上昇率（2023年）：8.8%（国家統計委員会）  
 貿易額（2023年）：輸出額 275.8億米ドル  
 輸入額 172.8億米ドル  
 貿易収支 103億米ドル（国家統計委員会）  
 主要貿易相手国（2023年）：イタリア、トルコ、ロシア、中国、ドイツ  
 （貿易額順、国家統計委員会）  
 為替（対米ドル）：1米ドル=1.7マナト  
 （中央銀行2017年以降米ドルに実質固定）  
 平均月収（2023年）：933.8マナト（中央銀行）  
 政策金利（2024年2月時点）：7.75%（中央銀行）

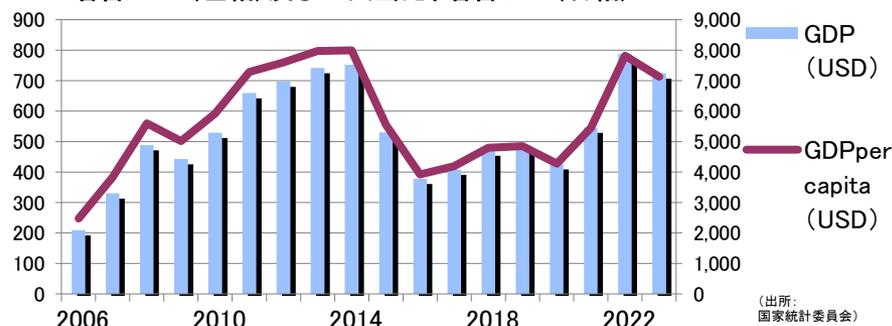
## 財政データ

当国財政年度：1月～12月  
 国家予算（2023年）：歳入307.73億マナト  
 歳出333.53億マナト（財務省）  
 外貨準備高（2024年1月）：676億米ドル（中央銀行+SOFAZ）  
 対外債務残高（2023年10月）：65.2億米ドル（GDP比9.3%）（財務省、  
 国家統計委員会）

## 景気動向

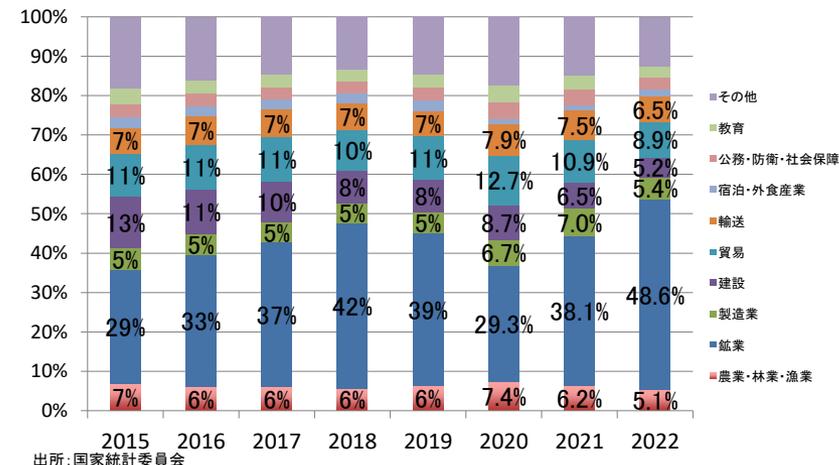
- 2014年後半から2016年にかけての経済危機（マイナス成長）後、数年は油価の上昇を受け緩やかに成長。新型コロナウイルスによる景気後退を経て、ロシアのウクライナ侵略等による油価高騰及び欧州のエネルギー需要増加により2022年の名目GDPは過去最高を記録。

名目GDP(左軸)及び一人当たり名目GDP(右軸)



## GDP産業別比率

- GDP全体の3～4割を鉱業（石油・ガス生産）が占め経済を牽引している一方、就業人口の4割が従事する農業の割合は僅か。

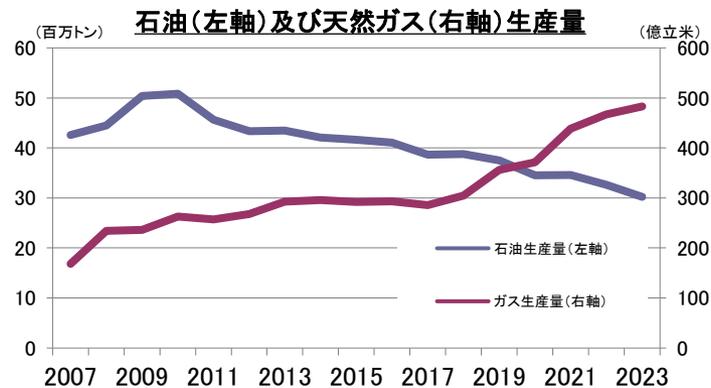




# アゼルバイジャン経済・財政(2)

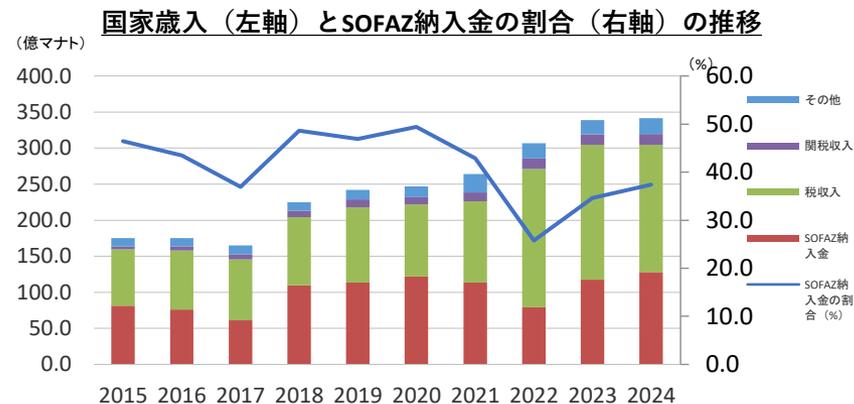
## 原油・ガス

- 原油生産は2010年以降減少傾向にある一方、シャフ・デニス鉱区の開発によりガス生産は増加傾向にある。



## 国家歳入とSOFAZ納入金

- 国家歳入については2018年以降、税収増加を主要因として増加。SOFAZ納入金の割合は、2020年を境に全体として減少傾向にあったが、2023年から上昇傾向に転じている。



## 国際収支

- 金融収支の改善に支えられ黒字を維持していたが、2020年には赤字を記録した。他方、新型コロナウイルス後のエネルギー需要の急増やロシア・ウクライナ情勢を起因とする油価高騰により経常収支は改善傾向。



## 外貨準備

- 2016年以降、保守的な油価設定による緊縮財政が進められ、外貨準備が増加。

